

平成30年11月29日

国内初となる皇室の至宝・国宝プロジェクト 日本美を守り伝える「紡ぐプロジェクト」が始動

文化庁、宮内庁及び株式会社読売新聞グループ本社は、日本美を守り伝える「紡ぐプロジェクト」を共同で進めることに合意しました。

国宝・重要文化財及び宮内庁三の丸尚蔵館に収蔵される皇室ゆかりの優品の特別展を開催。特別展などプロジェクトの収益を活かした文化財修理から美術品を紹介する多言語ポータルサイトの開設運営までを一体的に行う国内初の取組で、平成と次の時代を紡ぎます。

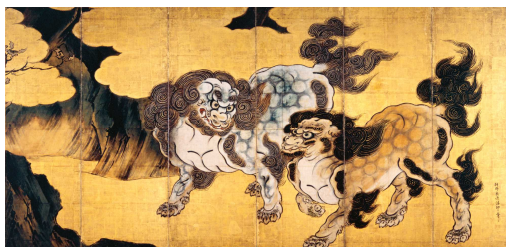
1. 特別展の開催

(1) 特別展 御即位 30 年記念 両陛下と文化交流 ―日本美を伝える―

- ・会期：2019 年 3 月 5 日（火）～4 月 29 日（月・祝）
- ・会場：東京国立博物館 本館特別 4・5 室
- ・展示作品：酒井抱一「花鳥十二ヶ月図」（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）等
- ・主催：東京国立博物館、宮内庁、文化庁、読売新聞社

(2) 特別展 美を紡ぐ 日本美術の名品 ―雪舟、永徳から光琳、北斎まで―

- ・会期：2019 年 5 月 3 日（金・祝）～6 月 2 日（日）
- ・会場：東京国立博物館 本館特別 4・5 室
- ・展示作品：狩野永徳「唐獅子図屏風」（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）等
- ・主催：東京国立博物館、文化庁、読売新聞社 ・協力：宮内庁



(写真 1) 狩野永徳筆「唐獅子図屏風」
(宮内庁三の丸尚蔵館蔵)



(写真 2) 狩野永徳筆 国宝「檜図屏風」
(東京国立博物館蔵)

2. 文化財修理事業

プロジェクトの収益の一部を充て、国宝等の修理（知恩院「阿弥陀二十五菩薩来迎図」）に必要な支援を行う。下記3.のサイトで修理の様子や修理の必要性や意義を発信する。



（写真3）知恩院「阿弥陀二十五菩薩来迎図」

3. 日本美と文化を紹介する多言語ポータルサイトの開設

宮内庁三の丸尚蔵館に収蔵される皇室ゆかりの優品や国宝・重要文化財について、高精細画像を用いてデジタルアーカイブ化する。時代背景や文化的価値にも触れられる魅力的な多言語ポータルサイトを2019年前半に本格稼働予定。

4. 紡ぐプロジェクト開始記念シンポジウム

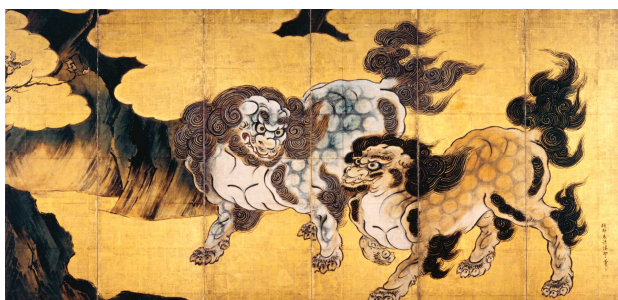
- ・日時：2019年3月28日（木）13時半～16時半（予定）
- ・会場：よみうり大手町ホール（東京都千代田区）
- ・登壇：文化庁長官 宮田亮平
元国立西洋美術館長 美術史家 高階秀爾 ほか

※詳細は別紙参照

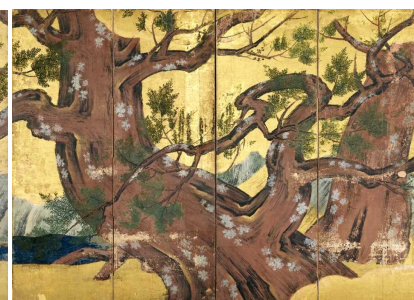
＜担当＞ 文化庁文化財第一課
課長 平山 直子（内線 2884）
調査係長 福島 俊輔（内線 3154）
電話：03-5253-4111（代表）
03-6734-3154（直通）
＜各事業問合せ先＞ 読売新聞グループ
本社広報部 電話：03-3216-8502



日本美を守り伝える「紡ぐプロジェクト」が始動します
—皇室の至宝・国宝プロジェクト—



狩野永徳筆「唐獅子図屏風」
宮内庁三の丸尚蔵館蔵



狩野永徳筆 国宝「檜図屏風」
東京国立博物館蔵

文化庁、宮内庁、読売新聞社は、皇室ゆかりの優品や国宝・重要文化財をはじめとする日本の美を、広く国内外へ、さらに未来へ紡ぐため、「日本美を守り伝える『紡ぐプロジェクト』—皇室の至宝・国宝プロジェクト—」を共同で進めていくことに合意しました。

国宝・重要文化財や宮内庁三の丸尚蔵館の収蔵品は、日本の美の象徴です。我が国が長い時を経て培ってきた文化遺産として、その美術史的、歴史的、学術的及び文化的価値を未来へ守り伝え、また、広く海外にも紹介していくべきものです。

近年、教育や観光分野で美術品や文化財の公開を求める社会的なニーズが高まり、我が国の文化を取り巻く環境は急速に変化しています。インターネットや高精細デジタル画像技術が発展し、美術品・文化財の鑑賞や保存継承の在り方についても、見直しが始まっています。いま、国内外の多くの人々に、日本文化の魅力や素晴らしさを感じていただく機会の充実を図ることが必要です。

このプロジェクトでは、美術品や文化財の保存と活用の両立を図る総合的な方策として、来春からスタートする展覧会での公開などを通じて得た収益を生かし、ポータルサイトを開設し、貴重な作品のデジタル保存、ウェブによる対外発信、文化財修理を国内で初めて一体的に進めます。

今後、中長期的な事業として、多くの協賛企業からのご支援をいただきながら、文化財・美術品を後世に紡いでいくために欠かせない「保存、公開、修理」という一連のサイクルが永続する新たな仕組みを作っていきます。

新たな御代を迎える節目の年に始まるこの取り組みが、かけがえのない日本の美と文化への理解を深めていただくきっかけとなれればと考えております。



日本美を守り伝える
TSUMUGU
紡ぐプロジェクト



酒井抱一筆「花鳥十二ヶ月図」
宮内庁三の丸尚蔵館蔵

■特別展覧会

平成31年春、特別展 御即位30年記念「両陛下と文化交流—日本美を伝える—」（3月5日～4月29日）、
「美を紡ぐ 日本美術の名品 —雪舟、永徳から光琳、北斎まで—」（5月3日～6月2日）の二つの展覧会を
東京国立博物館で開催します。

「両陛下と文化交流」では、両陛下ゆかりの品々のほか、両陛下が海外を訪問された際に、日本文化の象
徴として紹介してきた作品の中から、酒井抱一の「花鳥十二ヶ月図」（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）などを展示
します。「美を紡ぐ 日本美術の名品」では狩野永徳の「唐獅子図屏風」（同館蔵）、国宝「檜図屏風」
（東京国立博物館蔵）などを展示します。（詳細は別紙）



よみうり大手町ホール

■フォーラム

特別展「両陛下と文化交流—日本美を伝える—」会期中の平成
31年3月28日、紡ぐプロジェクトの意義などを紹介するフォーラ
ムを「よみうり大手町ホール」（東京都千代田区）で開催します。
文化庁・宮田亮平長官や、大原美術館館長で美術史家の高階秀爾
氏などの登壇を予定しています。



日本美を守り伝える TSUMUGU 紡ぐプロジェクト

■日本美術・文化ポータルサイト

日本の美術や文化の魅力を発信するポータルサイトを開設し、多言語化により、国内だけでなく、日本に興味を持つ海外の人に対しても情報を発信します。宮内庁三の丸尚蔵館に収蔵される皇室ゆかりの優品や、国宝・重要文化財を高精細画像を用いてデジタル化します。単なる作品紹介ではなく、時代背景や文化的価値などにも触れながら、読み物として楽しめるサイトとしていきます。平成31年春の特別展覧会に合わせてプレオープンし、平成31年度前半に本格オープンする予定です。



国宝「阿弥陀二十五菩薩来迎図」 京都・知恩院蔵

■文化財修理事業

プロジェクトの収益の一部を充て、文化財・美術品の修理に必要な支援を行います。

第一弾として、浄土宗総本山・知恩院（京都市東山区）が所蔵する国宝「阿弥陀二十五菩薩来迎図」（早来迎）を、3年間かけて修理していく予定です。

今後は、有識者などで構成する「紡ぐプロジェクト文化財修理事業選考委員会（仮称）」を設立し、修理する作品を選定していきます。

また、ポータルサイトなどを通じて修理の様子などを紹介するほか、修理の必要性、意義なども詳しく伝えていきます。

■プロジェクト公式ロゴ

プロジェクト名にある「紡ぐ」には、広くあまねく国民や海外の様々な人々に対する日本の美と文化の広がりや「横糸」として、時代を「縦糸」として、紡いだ糸を織りなすように、過去から未来へと継承してゆきたいという思いが込められています。国宝・重要文化財や皇室ゆかりの優品などを後世へと紡ぎ織りなしてゆくことこそが、紡ぐプロジェクトの目的です。

ロゴでは、広がりを示し、縁起の良い八角形で「紡」の揮毫を囲いました。「日本美を守り、後世に紡いでいく」というプロジェクトの意義を広げ伝えていくという思いを込めました。

「紡」の揮毫は文化庁・宮田亮平長官によるものです。



日本美を守り伝える
TSUMUGU
紡ぐプロジェクト



日本美を守り伝える
TSUMUGU
紡ぐプロジェクト



日本美を守り伝える
TSUMUGU
紡ぐプロジェクト



日本美を守り伝える
TSUMUGU
紡ぐプロジェクト



日本美を守り伝える
TSUMUGU
紡ぐプロジェクト

《報道関係のお問い合わせ》

読売新聞グループ本社広報部
電話：03-3216-8502（直通）

文化庁文化財第一課
課長 平山 直子（内線2884）
調査係長 福島 俊輔（内線3154）
電話：03-5253-4111（代表）
03-6734-3154（直通）